



IT 革命と柔らかい専門家 ——求められる人材——

会長 宮原秀夫

最近の情報科学技術の急速な進展は、製造、流通、販売など、我々の周りのあらゆる場面の産業活動はもとより、娯楽や教育などそのほかの様々なサービスの基本構造の変革を促してきました。更に、人の知的活動や人間関係にも影響を与えるようになってきています。これらの変化をまとめて IT 革命と呼ばれていますが、この IT 革命は、学術分野にもその影響を与えています。IT 革命を促した基礎学問としての情報科学の発展は、自然科学、社会科学、人文科学の全分野にわたり、新しい研究方法を提供するようになったといえます。その結果として、既存の各学問分野において新しい知見が得られるとともに、行動科学、地球科学、都市科学、生命科学といった総合科学の分野が生み出されてきました。しかし、同時に IT 革命は、その変化が大きいだけでなく、大変な速度で進行しているため、産業はもちろんのこと、政治・経済・社会・教育・文化等あらゆる領域で、どのようにしてその変化に対応していけばよいのかという問題を提起していることも事実です。

IT 革命によって引き起こされた具体的な問題として、例えば、インターネットによって提供される膨大な情報提供による、いわゆる情報爆発の問題、更に、提供される情報の信頼性、安全性などに関する問題が指摘されています。そのようなことを受けて、「情報システムは、本当に我々の知的活動を支援しているのか」といった疑問視する声も上がってきています。インターネットにおける情報サービスにおいて、開発当初には予測し切れなかった問題が引き起こされた例として、出会い系サイトなどに代表される非社会的サービス、インターネット上のコンピュータウイルス、コンピュータシステムからの個人情報の漏えいなどが挙げられます。一方で、インターネットは科学技術への貢献はもとより、今や市民生活にとってもなくてはならないものになっています。しかし、高齢者や障害者に関する問題、仮想と現実の混同によって引き起こされる問題、育児や教育への悪影響などを正しく把握し、解決していくことはこれからの大問題とされています。少子高齢化、医療、食料、エネルギーなど現代社会が抱える様々な課題の解決は IT なくしてはあり得ないことも事実です。また、IT は、このような社会的なマイナス面の解決だけではなく、文化・生活の多様性を生み、我々により豊かな知識社会を提供してくれるなどのプラス面の部分にも大いに機能し貢献できると確信します。情報技術の活用により、社会におけるマイナス面を最小に (Minimize the Negatives)、プラス面を最大に (Maximize the Potential) することが、我々に求められています。このような考えのもとに、情報科学を推進するためには、科学者や技術者は、技術が「人間」に与える影響を正しく理解する必要があります。そのためには、技術的な問題だけでなく、社会への影響や心理的要因などにまで立ち入らなければなりません。しかし、現状、社会学や心理学の専門家は現在の技術を与えられたものとして固定し、その上で人間社会への影響を掘り下げる研究を進める傾向があります。明らかにしなければならないのは、将来の技術が、将来の人間に対して、どのような影響を与えるかということです。そのためには、技術発展の流れや、社会システム、人間システムなど関連するあらゆる仕組みをしっかりと把握しなければなりません。アセスメントを行う専門家には、一つの専門分野にこだわることなく、他の分野とのつながりを理解し、総合的に判断できる能力が求められます。そのような専門家を「柔らかい専門家」と呼ぶとしたら、柔らかい専門家こそが今社会から求められているのです。この電子情報通信学会が、そのような専門家の育成の一助を担い、明るい未来社会の構築に貢献することを期待したいと思います。